

第4学年1組 国語科学習指導案

【日時】令和6年7月24日(水)10:20～11:05 【場所】4年1組教室 【指導者】徳永 祐也

本授業の参観の視点

自分の思いや考えをもち、根拠を明らかにして伝え合う活動「討論」に没頭しながら、友達と自分の意見を比較検討したり、教師の問いかけについて考えたりして学びを俯瞰していく姿をご覧ください。

1 単元名 討論をしよう ～「ごんぎつね」(光村図書4年)～

2 単元の構想

(1) 単元について

「ごんぎつね」は読み手によって解釈の分かれる物語である。ごんは、村人の生活を脅かすほど悪いきつねであると同時に、誰ともつながりをもつことができない寂しいきつねでもある。「おれと同じひとりぼっちの兵十か」というごんからは、兵十への憐れみと同時に、自分と同じ立場に置かれた兵十に対する親しみも読み取ることができる。ごんがくりやまつたけを持っていくのは、兵十へのつぐないをするためでもあるが、兵十とのつながりを求め自分の行いに気付いて欲しいためでもある。「おまいだったのか」と言われてうなずいたごんは、「ずっと気付いて欲しかった兵十に、やっと気付いてもらえた」という面から見ると幸せと解釈できるが、「気付いてもらった時には撃たれてしまっていた」という面から見れば不幸とも解釈できる。ごんは、最後には一人ぼっちではなくなったともとれるし、最後まで一人ぼっちのままだったともとれる。このように、人物像や心情の変化、結末について解釈の分かれる「ごんぎつね」は、自分なりに読み取ったことを友達と交流し、考えを広げたり深めたりする学習をするのに適した教材である。

自分の考えを伝え合うことは、他者を通して自分がどのように登場人物の人物像や心情を捉えているかを知ることである。また、自分と他者の考えの共通点や相違点を見付け、自分の考えを検討し更新することでもある。このような学習活動を通して、物語を読んで感想を伝え合うことに楽しみを見出すことができれば、読書がこれまで以上に楽しくなるだろう。また、言葉や文章を根拠にして自分の考えをもち、それをもとに話し合いをする活動は、今後、国語科以外の様々な教科にも生かすことができると考える。

(2) 児童について

本学級の児童は「言葉の資質・能力」において、「白いぼうし」では言葉に着目して、出来事と人物の関係をとらえる学習をした。「探偵になろう」という言語活動を設定し、登場人物の女の子の正体がちょうである証拠を見付け、文章にまとめ伝え合うことができた。「一つの花」ではくり返し出てくる物や言葉について考える学習をした。「比べっこしよう 戦争と平和」という言語活動を設定し、場面を比べながら、「一つだけ」の意味とその変化が、人物の気持ちとどうかかわっているかを伝え合うことができた。自分の考えを伝えることは多くの児童ができているが、自分の考えがどの表現から来ているのか根拠を明らかにすることが十分でない児童もいるため、重点的に指導するようにしたい。

「学び方の資質・能力」においては、「白いぼうし」や「一つの花」の学習において、3年生までの物語文の学習を振り返り、どんな観点で読んでいったらよいか考えながら取り組むことができた。「一つの花」の学習では、「何が一番変わったのか」について異なる立場の友達と考えを伝え合うことができた。しかし、話し合いの場面において自分の考えを伝えることはできるが、友達の意見に対して質問をしたり、友達の考えを一度受け止めたりすることについては課題が見られた。今後は、効果的に質問したり友達の考えを受け止めた上で反対意見を述べたりするなど、異なる立場に共感し、友達と協働しながら深い学びにつなげていく「粘り強さ」を意識した指導をしたい。

(3) 指導について

討論をする言語活動を通して指導を行う。討論とは、テーマに沿って根拠をもって意見を述べ合うことである。本学級の児童は自分の考えを友達と交流することが好きな児童が多いため、討論に没頭することが期待される。討論を通して友達の意見と自分の意見を比べて自分の意見を考えなおしたり、質問

や反論を考えたり、教師からの問いかけに答えようとしたりすることで「自分はなぜそう考えているのか」「自分の考えは妥当なのか」を俯瞰して考えられるようにしたい。

第一次では、討論について理解し、見通しをもつ活動を設定する。まず、実際に討論をしている映像を見せ、討論に対するイメージをもてるようにする。討論と話し合いの違いについて整理し、討論には意見に対する根拠や解釈が必要であることを確認する。ごんぎつねで討論することを告げ、本文を読む。その際、重要人物や難しい語句、簡単なあらすじを全体で確認する。討論のテーマについては、「人物像」「ごんの変化」「兵十の変化」「結末」の4つについて、児童の初発の感想や、討論の途中で意見が分かれたところを取り上げながら示すようにする。

第二次では、実際に討論をする活動を設定する。討論をする際には、全員が意見をもてるように、まず、テーマについて意見を書く活動を設定する。意見を箇条書きにして考えを整理できるようにすることで、簡潔に意見が述べられるようにする。その際、討論の映像で学んだことを想起し、根拠を示しながら自分の意見をもてるようにしておく。討論の前半では、自由に動き回り自分達で小グループを作って討論を行う。そのことで、一人一人が十分に活動できるようにするとともに、苦手な児童も友達の意見を参考にしながら自分の意見を伝え合うことができるようにしたい。後半では全体での討論を行う。全体での討論では、個別の討論で出し合った意見をもとに、みんなで意見を述べ合うことができるようにしたい。また、教師が論点を整理したり、児童の意見を取り上げてそれについて問い返したりすることで、児童が自分の考えを見直したり深めたりすることができるようにしていく。さらに、授業の冒頭や振り返りで、相手の意見を受け止めていた児童や、相手の意見を引き出すための効果的な質問をしている児童の学びの姿を価値付けることで「学び方の資質・能力」を意識した学習ができるようにする。

第三次では、討論を通して考えたことについて、意見文を書き、読み合う時間を設定する。その際、どのテーマで意見文を書くか自己選択できるようにする。また、テーマごとに書いた自分の意見や、友達の意見のメモを参考にしながら討論の内容を踏まえて書くことで、改めてテーマについて考え直しながら、自分の考えを整理して分かりやすく表現できるようにしたい。

(4) 期待する「回遊する学び」について

本単元（題材）及び本時における児童の姿を小学校全体テーマの「回遊する学び」に関わる内容と資質・能力に関連付けたものが、表1である。

表1 期待する「回遊する学び」に関わる内容と資質・能力、児童の姿

	内容	資質・能力	児童の姿
ステージA 「同単元（題材）・領域」	国語科「ごんぎつね」 領域「読むこと」	・人物像や心情の変化を、場面の移り変わり結び付けて具体的に想像している。 【思考力、判断力、表現力等】	・本文中の表現を引用したり、自分なりに解釈したりしながら人物像や心情について友達と伝え合っている。
ステージB 「同教科」	国語科「聞き取りメモの工夫」 領域「話すこと・聞くこと」	・必要なことを記録したり質問したりしながら話し手が伝えたいことを中心に捉え、自分の考えをもっている。 【思考力、判断力、表現力等】	・相手の意見をメモしながら聞き、自分の意見の参考にしたり質問や反論を考えたりしている。
ステージC 「他教科」	学級活動 「学級目標を決めよう」	・学級・学校の生活の改善・充実を図るために、多様な他者のよさを生かし、協働して実践しようとしている。 【学びに向かう力、人間性等】	・自分から友達に声をかけ、進んで自分の考えを伝え合おうとしている。
ステージD 「実生活・実社会」	鑑賞して 感想を述べ合う	・自分の考えをもち、友達の考えとの共通点や相違点を見つけている。 【思考力、判断力、表現力等】	・映画・テレビ・マンガ・アニメなどの創作物を鑑賞し、友達と感想を述べ合っている。

他者の発想との回遊を通して、相手と自分の意見を比べたり質問や反論を考えたりする中で、自分の考えを見直し、よりよい考えを再構築できるようにしたい。個別の討論の際は、討論の相手やグループの人数などを自己選択することで、発言が苦手な児童も自分に合う方法で伝え合うことができるようにする。

3 単元の目標と評価規準

(1) 単元の目標

場面の移り変わりに注意しながら登場人物の人物像や気持ちの変化について想像して読み、読んだことを基に考えを伝え合うことができるようにする。

(2) 評価規準

ア 様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増やし、語彙を豊かにしている。 【知識・技能】

イ 人物像や心情の変化について場面の移り変わり結び付けて具体的に想像している。

【思考・判断・表現】

ウ 考えを伝え合うことよき気付き、自分の思いや考えを進んで伝え合おうとしている。

【主体的に学びに向かう態度】

4 ■単元の指導計画（全12時間 本時9/12時間目）

次	時	主な学習活動（○）	指導上の留意点（・）	評価規準（◆）【観点】	回遊
一	1	○「ごんぎつね」を読み、討論をする計画を立てる。	<ul style="list-style-type: none"> 実際に討論をしている映像を見てイメージできるようにするとともに、どんなよさがあるかを考えるようにする。 児童の感想を取り上げながらテーマを決め、討論に意欲をもつことができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆討論の映像を見て、相手の意見を一度受け入れたり、根拠のある意見の述べ方をしたりするよさについて考えている。 【主】 ◆今まで学習した人物像や心情が変化したところなど、読みの観点を意識しながらテーマを決めようとしている。 【思・判・表】 	A D
	2	・討論について知る。 ・ごんぎつねを読み、感想や疑問を書く。			
	3	・登場人物やあらすじを確認し、討論のテーマを決める。			
二	4	○テーマに沿って討論をする。	<ul style="list-style-type: none"> 討論の前にテーマについての自分の意見をノートに書く時間を設定することで、考えを整理できるようにする。 友達の意見をメモすることで、自分の意見を広げたり、質問や反論を考えたりできるようにする。 自由に動き回って討論することで、一人一人の活動量を増やし、十分に自分の考えを伝え合うことができるようにする。 討論して新たに考えたことをノートにまとめていくことで、自分の考えの足跡が残るようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆場面の様子や心情の変化を読み取るために必要な語句を調べたり、気持ちや性格を表す語句について考えたりして語彙を豊かにしている。 【知・技】 ◆本文から引用したり、解釈を加えたりして、根拠や理由を明らかにして自分の考えを表現している。 【思・判・表】 ◆友達に自分の思いや考えを進んで伝えようとしている。 【主】 ◆友達の意見をメモに取り、同じ立場の友達の意見に付け加えて意見を述べたり、異なる立場の友達に質問したり反論したりしている。 【思・判・表】 	D C 他者 B
	5	・設定場面でのごんの人物像について考え「ごんはどんなきつねか」討論する。			
	6	・ごんの心情や言動の変化について考え「ごんが変わったのはどの場面か」討論する。			
	7	・兵十の心情や言動の変化について考え、「兵十が変わったのはどの場面か」討論する。			
	8	・結末のごんの心情について考え「ごんは幸せか」討論する。			
	9	本時			
	10				
三	11	○意見文を書く。	<ul style="list-style-type: none"> 討論後にノートにまとめた考えや友達の意見のメモなどを見ることでよりよい意見文が書けるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆本文から引用したり、解釈を加えたりして、根拠や理由を明らかにしながら自分の考えを書いたり、異なる立場の意見に対して根拠をもって反対意見を書いたりしている。 【思・判・表】 	A
	12	・4つの討論の中で、書きたいテーマを選んで意見文を書き、書いたものを読み合う。			

5 本時の指導 (9/12)

(1) 指導目標

「結末のごんは幸せか不幸か」について友達と自分の考えを伝え合うことを通して、ごんの心情や人物像、表現の効果などについて自分の考えを広げたり深めたりすることができるようにする。

(2) 評価規準

イ 結末のごんの心情の変化について、叙述を基に想像したことを、根拠を明らかにしながら友達と伝え合っている。 【思考・判断・表現】

(3) 展開 (波線部は「回遊する学び」に関わる手立て)

学習活動と児童の反応 ()	教師の働きかけと形成的評価 (◆)
<p>1 前時までの振り返りをし、本時の学習内容を確認する。(5分)</p> <p>・ぼくは、兵十の気持ちが変わったのはくりを見た時だと思ったけど、撃たれたごんを見た時だという人もいたよ。</p> <p>・前は1人としか意見交換できなかったから今日はたくさんの人とできるといいな。</p>	<p>1-(1) 前時までの討論の様子が分かる児童のノートを紹介することで、前時までの学習を俯瞰できるようにする。</p> <p>1-(2) 前時までの学び方を価値付けることで、自分の考えをより多くの友達と伝え合うとともに質問や反論をして、学びを広げたり深めたりしようとする意欲を高める。(A・C)</p>
<p>結末のごんは幸せか不幸かを討論しよう。</p>	
<p>2 討論をする。(30分)</p> <p>・「うなずきました」と書いてあるよ。ごんは、うれしくてうなずいたんじゃないかな。</p> <p>・「おまいだったのか」ということに対してうなずいただけで、うれしかったんじゃないと思うよ。</p> <p>・でもごんは、兵十に気付いて欲しいと思っていたんだから、「おまいだったのか」と言われてうれしかったと思うよ。</p> <p>・たしかにごんは、兵十に気付いて欲しかったと思うけど、気付かれないように行動していたんだから、撃たれたことは不幸なんじゃないの。</p> <p>・「引き合わないなあ」と思っていたのに、そのあくる日もくりを持ってきたのだから、それだけ兵十に気付いて欲しかったんだと思う。最後は撃たれたとしても、幸せな気持ちじゃないかな。</p> <p>・兵十が打つ前に気付いてくれてたら幸せだけど、結局撃った後に気付いたんだから、ごんにとっては不幸じゃないかな。</p>	<p>2-(1) 同じ立場の友達と意見交換する活動を設定することで、どの児童も自分の考えを伝えることができるようにする。</p> <p>2-(2) 自由に動き回り、討論する人数や相手を自己選択できるようにすることで、一人一人の交流の機会を保障し、どの児童も自分にあったやり方で討論に参加できるようにする。(B・C・D)</p> <p>2-(3) 全体討論の中で、児童の意見を取り上げながら、どの表現からそう考えたのかを問い返すことで、学びを俯瞰できるようにする。</p> <p>◆ ごんの心情について具体的に友達と伝え合い、論点について質問や反論をしながら自分の意見を再構築しようとしているか。 (観察)【思・判・表】</p> <p>B 2つの場面のごんの心情の変化について、叙述を基に想像したことを、根拠を明らかにしながら友達と伝え合っている。</p> <p>C→ 教科書のどこに書いてあるのか、なぜそこを選んだかを問い、自分の考えの根拠を見付けられるようにする。</p>
<p>3 結末の表現について話し合う。(5分)</p> <p>・はっきり書いた方が、ごんの気持ちがよく分かると思うよ。</p> <p>・ごんがうれしかったとはっきり書かないことで、どういう気持ちなのか想像してほしかったんじゃないかな。</p>	<p>3-(1) 新見南吉の原文には「うれしくなりました」と書かれていることを紹介し、幸せか不幸か改めて考えるようにする。</p> <p>3-(2) 兵十が気付いたことを問うことで、ごんが償いをした理由は伝わっていないことに気付かせ、幸せか不幸か改めて考えるようにする。</p>
<p>4 振り返りをする。(5分)</p> <p>・相手に対して質問をしたり、よい意見を参考にしたりすることができたよ。</p> <p>・友達の意見を聞いて納得する部分はあったけど、やっぱり自分は不幸だと思うな。</p>	<p>4-(1) 最終的な自分の意見を書く時間をとることで、学びを俯瞰できるようにする。</p> <p>4-(2) お互いの考えが深まるような質問や反論の仕方をしてきた児童を価値付けることで、よりよい学び方をしようという意欲を高める。(C)</p>

